

# 「幸福度指標」に見る人口減少社会の未来の扉

## ～小国町「住民アンケート」から～ 第2回（3回シリーズ）

### <趣旨>

当研究所は、人口減少社会の持続的発展のカギを探り出そうと挑戦している。

経済・社会・環境問題を一体とし、‘誰一人取り残さない’という包摂的理念を掲げ、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）と、2011年からOECD（経済協力開発機構）が提唱している「幸福の枠組み」から、「幸福度指標」作成を試みている。

最初の挑戦である、本年1月に実施した小国町との共同調査・研究「住民アンケート」において、その手がかりをつかむことができた。

4月号より、3回シリーズでお届けしている。

第1回（4月）：1970年に、総務省から‘過疎地域’の指定を受けた人口約7,000人の小国町。

人口減少に歯止めがかからない寂しさを感じながらも、そこに生活する方々の幸福度の高さと、その内容を紹介した。

第2回（本号）：町内6つの集落の幸福度を、比較する。

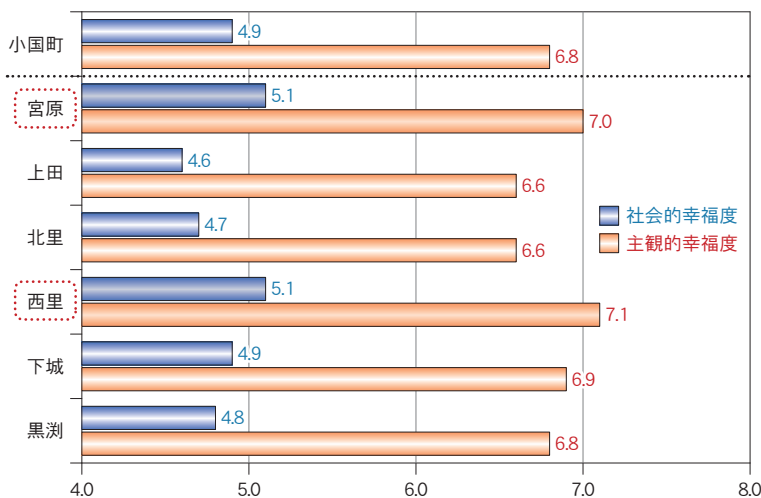
最も幸福度の高い「西里」は、2009年に小学校が廃校になった人口400人の、第三者から見れば、‘限界集落’。

第3回（6月）：その背景を、住民アンケートから整理し、潜在する新しい世界を開示する。

経済合理性の追求では、この事実は見えてこない。‘過疎地域’‘限界集落’が、人口減少社会の未来の扉を開く世界である。

そこに、新たなビジネスの可能性（コロンブスの卵）を、見出した。

図表1 小国町の「地区別」幸福度



#### ➤社会的幸福度

あなたは、あなたの地域がより良い方向に向かっていると感じていますか？

#### ➤主観的幸福度

あなたは、現在、「幸せだ」と感じていますか？

#### 幸福度の数値について

幸福度の数値は、低いより高い方が良いが、〇〇点以上が良いと、それ未満は悪い、というものではない。

今回の小国町の初めての調査を基盤に、他地域との比較が進むことで各地の特徴が明らかになることが期待される。

後段の図表4～9の満足度も同様。

「感じていない：1点」～「感じている：10点」の、10段階評価。

※小国町の「社会的幸福度」4.97ptは、「主観的幸福度」6.8ptより低い。その背景には、自由コメント「人口減少が進み、寂しい。」に、象徴されるものがあるかも知れない。

# 1 小国町の地区別「幸福度」

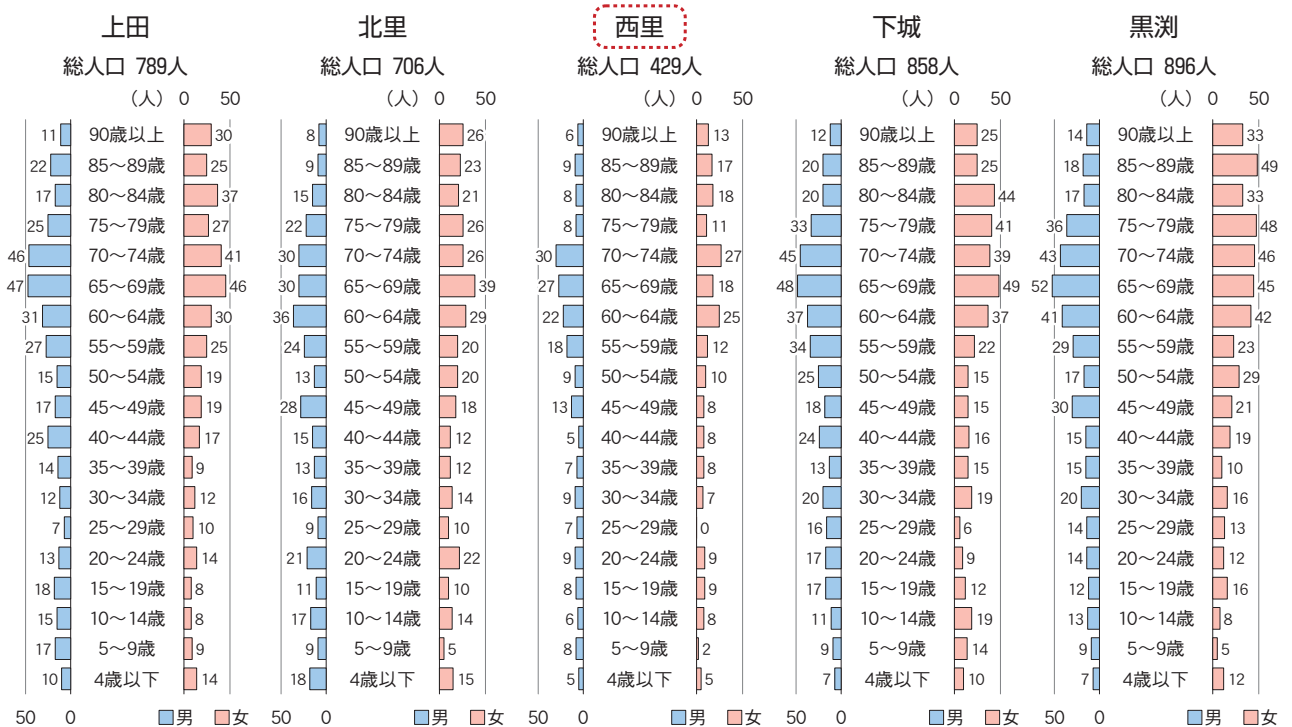
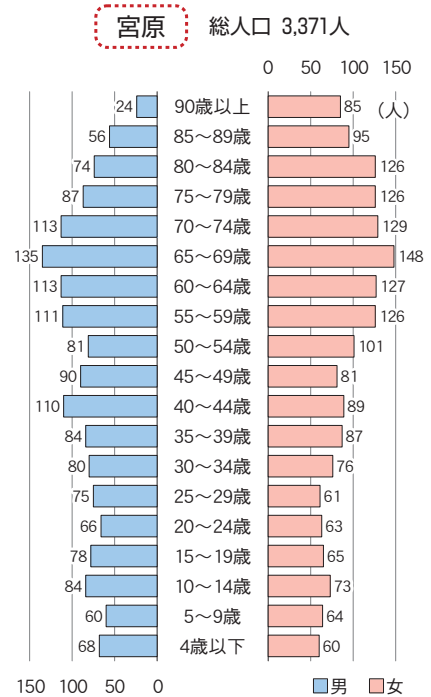
- 宮原と西里の幸福度が高い（前頁、図表1）。
- 宮原は、小国町人口の半数近くが住む中心地。  
一方、西里は、人口400人強の、第三者から見れば「限界集落」であり、人口減少のスピードも違う（図表3）。☞次頁以降、西里の高い幸福度の背景を探る。

図表2 小国町資源マップ



資料：地方創生の動向 SDGs未来都市「小国町」の取組 より

図表3 小国町「6地区」の人口ピラミッド



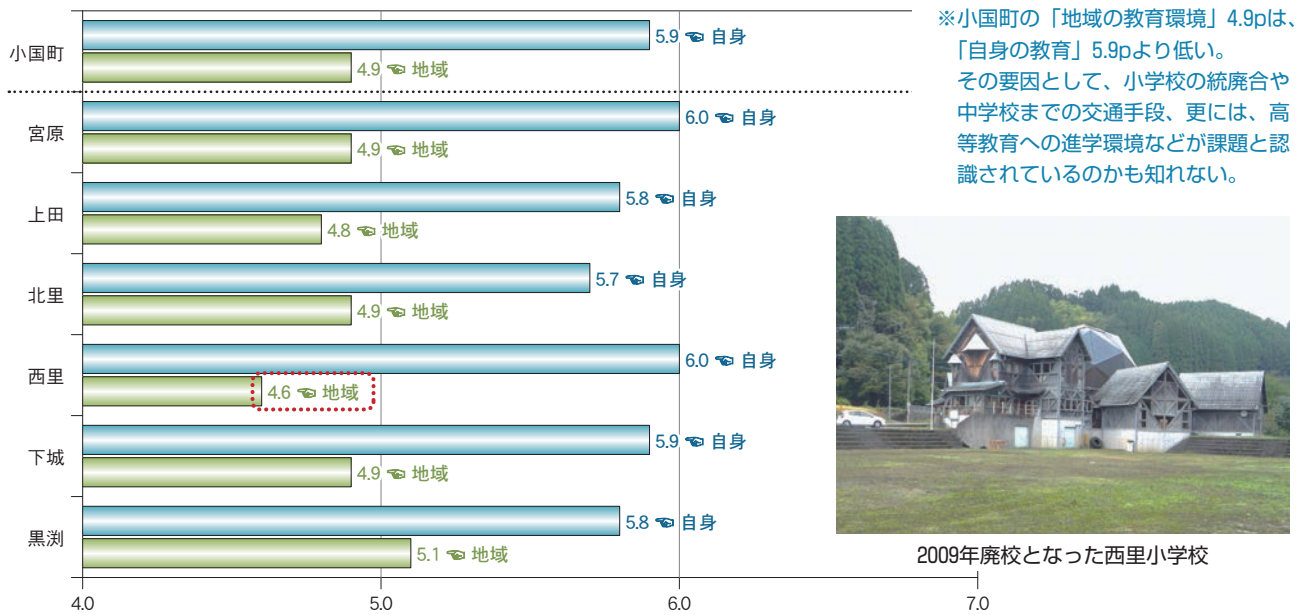
資料：第2期小国町人口ビジョン（小国町住民台帳2019年12月）

## 2 西里の「教育環境」と「生活の安全」の評価は低いのに・・・？

- 西里小学校は、2009年に廃校になっている。
  - また、がけ崩れなどの自然災害の不安がある集落もある。
- ☞なのに、「幸福度」が高いのは、何故か？

図表4 教育環境

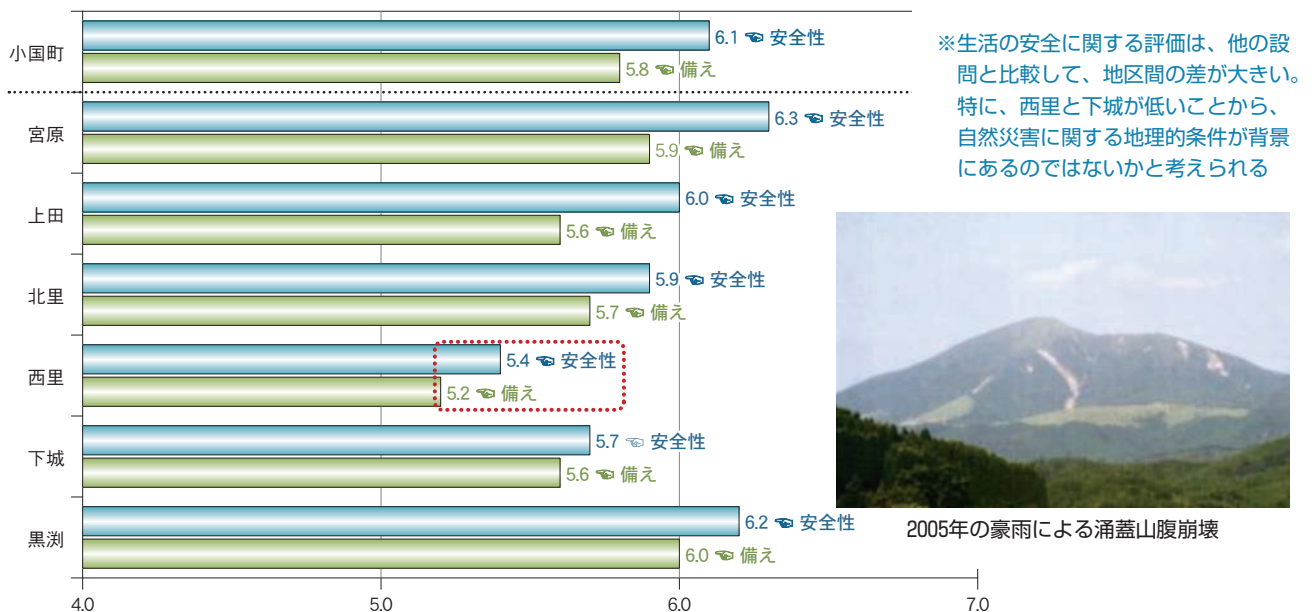
- 自身の教育 : あなたは、ご自身がこれまで受けてきた教育や、習得した技能について、満足していますか？
- 地域の教育環境 : あなたは、あなたの、そして地域の子どもたちの将来が、幸福へと向かう教育環境が整っていると、思いますか？



図表4～9は「1～10」の10段階評価。点数が高いほど満足度が高い。

図表5 生活の安全

- 生活的安全性 : あなたの地域は、災害や犯罪などに関して、安全だと思いますか？
- 生活の安全への備え : また、防災や防犯、救急体制などの備えができていますと感じますか？

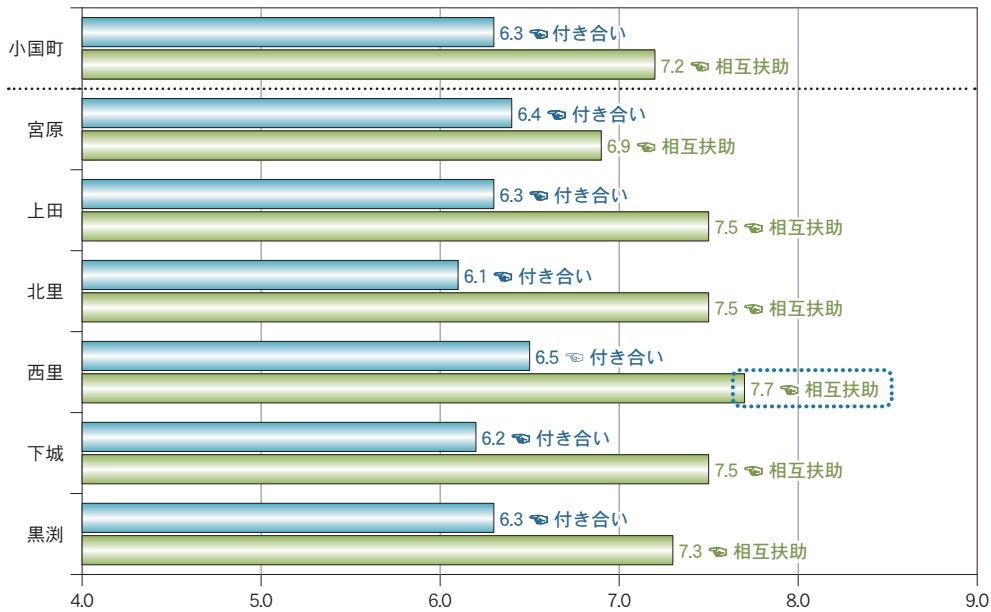


### 3 西里の「相互扶助」「自治」

➤ 西里は、「近所付き合い」「相互扶助」といった社会とのつながりや、「自治」に関する評価が高い。

図表6 社会とのつながり

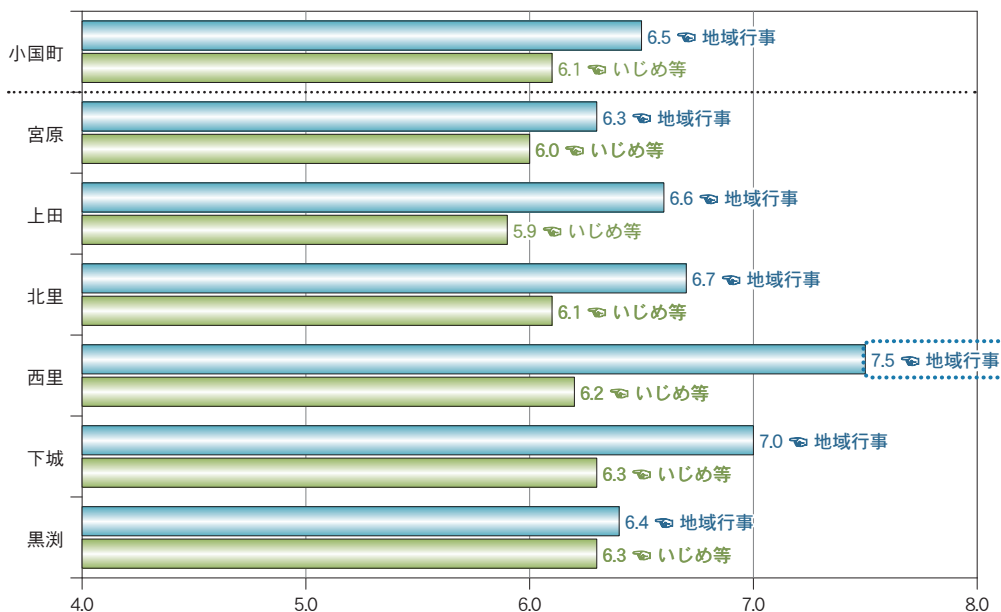
- 付き合い：あなたは、ご近所づきあいや、自宅以外でつるげる所（友人やお店など）は、ありますか？
- 相互扶助：あなたのご近所、あるいは地域では、何かあった時お互いに声を掛け合ったり、お手伝いをしたりする習慣はありますか？



※互恵・相互扶助・自治に関する評価は、他の設問と比較して、6地域全域で高い(6p以上)。

図表7 自治

- 地域行事：あなたは、選挙や集落などの行事への参加について、積極的ですか？
- いじめ等：あなたの地域では、学校での子どものいじめや、家庭内暴力、汚職の問題などに対して、多くの人が強い関心を持っていると感じていますか？



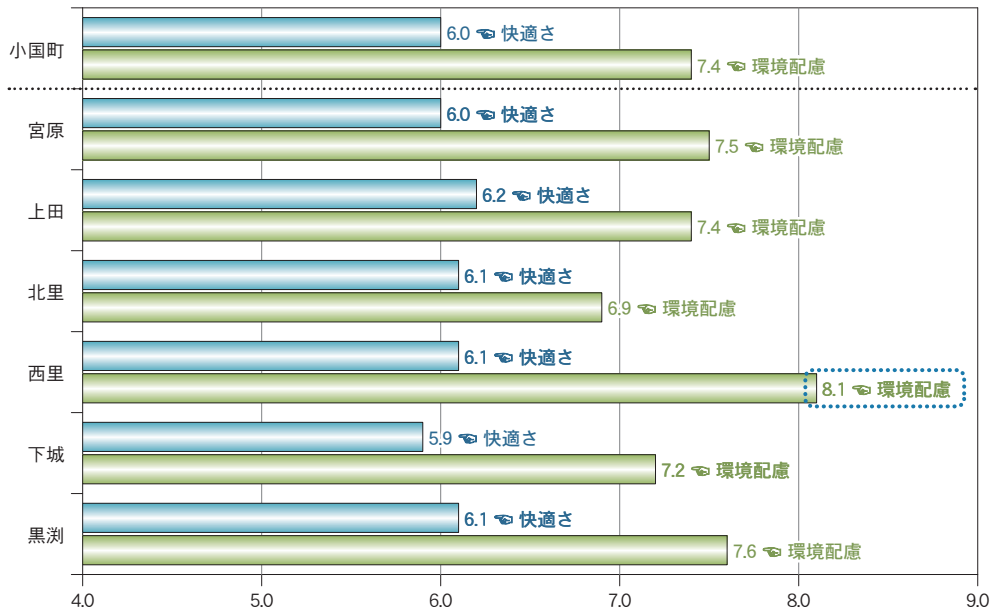
※農村社会に共通する特徴として、持続可能性を自生する力の源泉となっている可能性がある。

## 4 西里の「住居」「自然や歴史・文化」

- 「住居」と「自然や歴史・文化」に対する評価が、際立って高い。
- 西里は涌蓋山の麓<sup>わいたさん</sup>にあって、岳湯地区やはげの湯地区では、自宅から湯けむりが勢いよく上がり、お風呂、上水道、暖房などに、24時間365日、地熱が利用されている。

図表8 住居

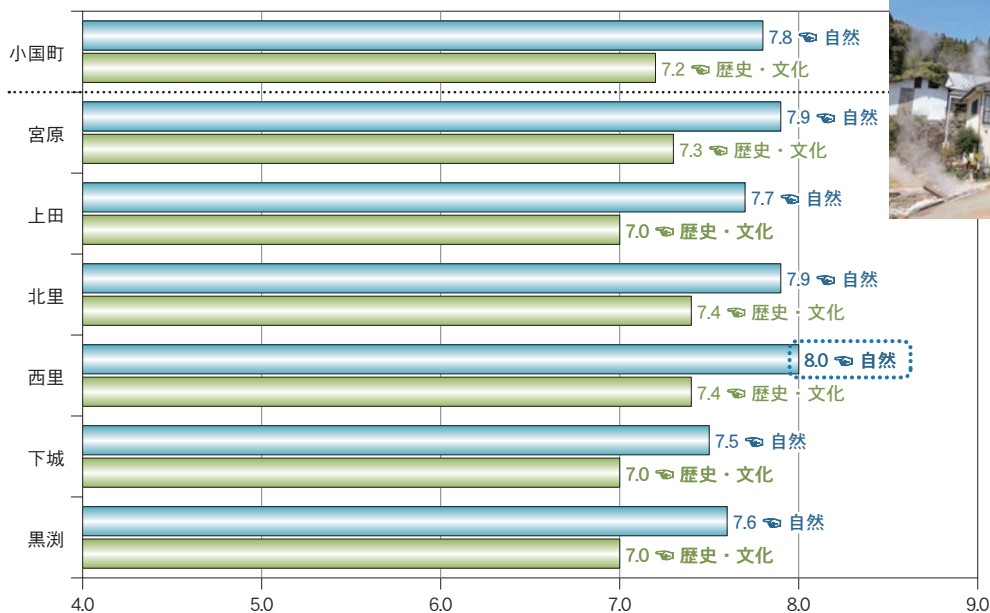
- 快適さ : あなたは、現在のお住まいに、「快適さ」や「ゆとり」を感じていますか？
- 環境配慮 : あなたは、あなたのお住まいについて、省エネやCO<sub>2</sub>削減など、環境にやさしい作りの方が良いと思いますか？



※小国町全域で、自然環境や、地元の自然・歴史・文化への評価が、極めて高い(7p以上)。小国町の特徴として、持続可能性を自生する力の源泉となっている可能性がある。

図表9 自然や歴史・文化

- 自然 : あなたは、地元の自然を素晴らしいと感じていますか？
- 歴史・文化 : あなたは、地元の歴史や文化に誇りを感じていますか？

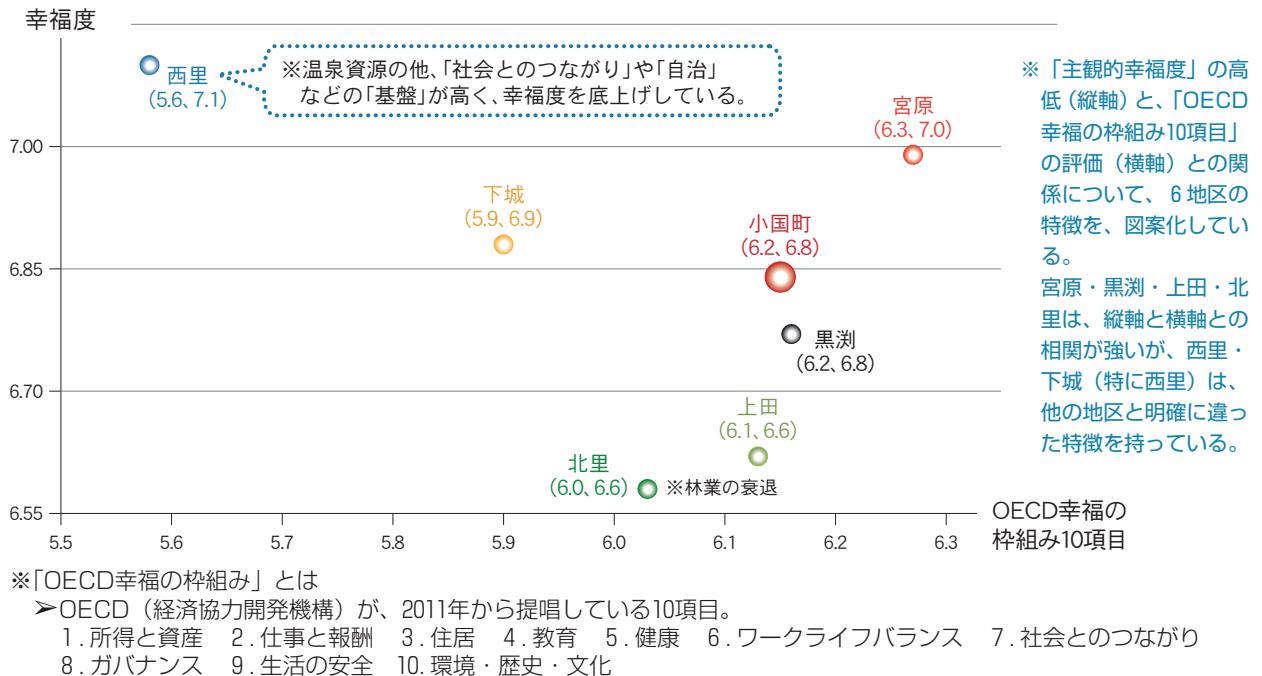


西里の湯けむり集落

## 5 「幸福度」と「OECD幸福の枠組み」

- 「幸福度（Y軸）」と「OECD幸福の枠組み（X軸）」※との関係を比較すると、西里は、小学校の廃校や、災害の大きさから「OECD幸福の枠組み」の満足度が小さいが、わいた温泉という温泉資源や、「社会とのつながり」や「自治」などの社会システムにおける「基盤」の高さから、「幸福度」が最も高くなっている。
- 杖立温泉を有する下城も、西里と同様の構造である。
- 宮原の「幸福度」が高いのは、「OECD幸福の枠組み」の満足度が大きいから。
  - ☞ つまり、宮原には温泉といった特別な資源は無いが、小国町の中心地として、商業施設、医療・福祉、公共交通機関（路線バス）、行政などの生活インフラが整っている。

図表10 「幸福度」と「OECD幸福の枠組み」



### <最後に>

- 人口400人ちょっとの西里地区は、2009年に小学校が廃校になるなど、第三者から見れば、典型的な「限界集落」。
- なのに、その住民の「幸福度」が最も高いという事実を、経済合理性のイデオロギーでは説明が出来ない。
- 「限界集落」のイメージから来る先入観を退け、ニュートラルな事実認識に努めると、幸福感の背景に、わいた温泉をはじめとした自然の恵みと共に、相互扶助、互惠、自治といった社会システムが見えてくる。
- 町、村、集落などの社会組織としての持続可能性の問題と、「住民の暮らし」が自生する力とは、別物だということだろう。
- 次回6月号では、この「住民の暮らし」が自生する力が、どこから来るのか、更に掘り下げる。そこに、全く新しい市場が見えて来る。